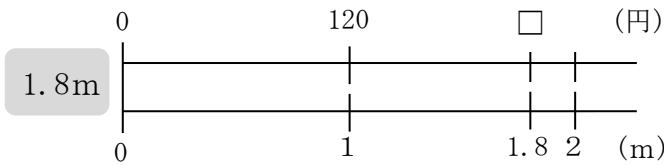


# 小数のかけ算・わり算

年 組 番 名前

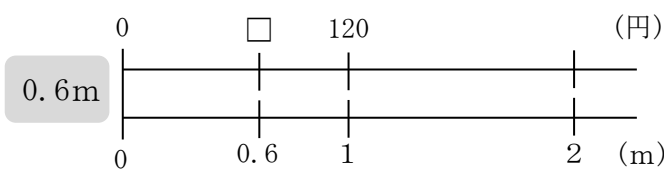
1 1 mのねだんが120 円のリボンがあります。このリボンについて、次の問題に答えましょう。

(1) このリボン1.8m, 0.6mのねだんは、それぞれいくらですか。



式

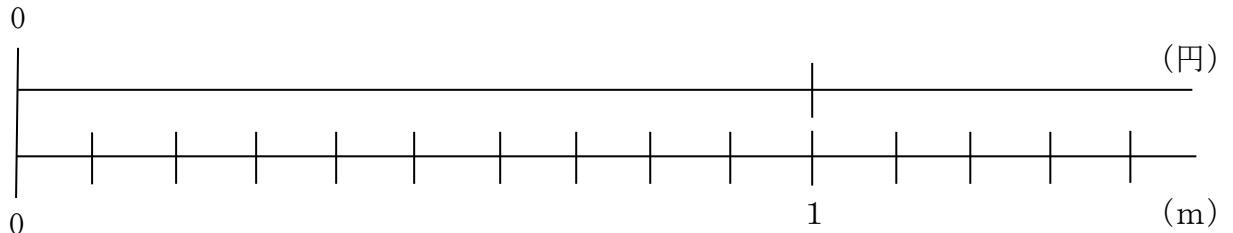
答え



式

答え

(2) リボン1mのねだんがいくらになるかを考えます。1mのねだんを□円として、リボンの長さとなだんの関係を数直線の図に表します。リボン0.4mの「0.4」、0.4mのねだん120 円の「120」、1mのねだん□円の「□」を下の数直線の図にかきましよう。

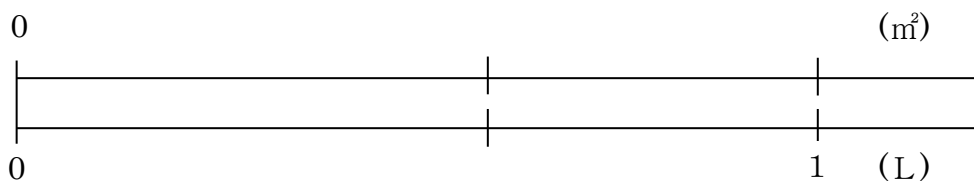


(3) リボン1mのねだんを求める式と答えを書きましょう。

式

答え

2 0.6Lで板を12 m<sup>2</sup>ぬることができるペンキがあります。このペンキ1 Lでは、板を何m<sup>2</sup>ぬることができますか。(下の数直線の図を使って考えてみましょう。)



式

答え

# 小数のかけ算・わり算

年 組 番 名 前

1 1 mのねだんが 120 円のリボンがあります。このリボンについて、次の問題に答えましょう。

(1) このリボン 1.8m, 0.6mのねだんは、それぞれいくらですか。

1.8m

式  $120 \times 1.8 = 216$

答え  $216$  円

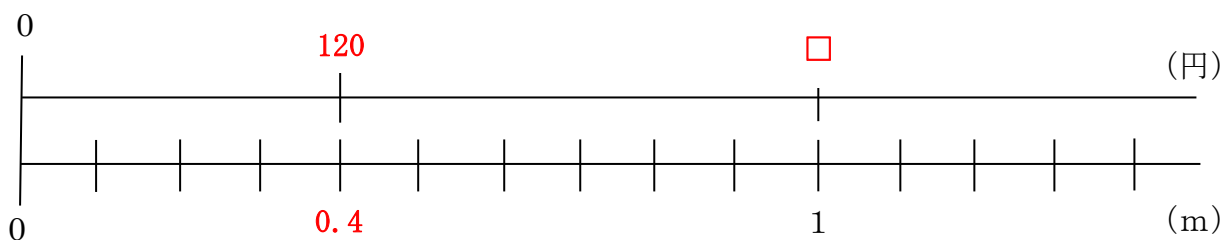
0.6m

式  $120 \times 0.6 = 72$

答え  $72$  円

◆解説◆  
リボンの長さが小数で表されていても、代金を求めるときには、整数のときと同じように、かけ算の式を立てることができます。

(2) リボン 1mのねだんがいくらになるかを考えます。1mのねだんを□円として、リボンの長さとなだんの関係を数直線の図に表します。リボン 0.4mの「0.4」、0.4mのねだん 120 円の「120」、1mのねだん□円の「□」を下の数直線の図にかきましょう。



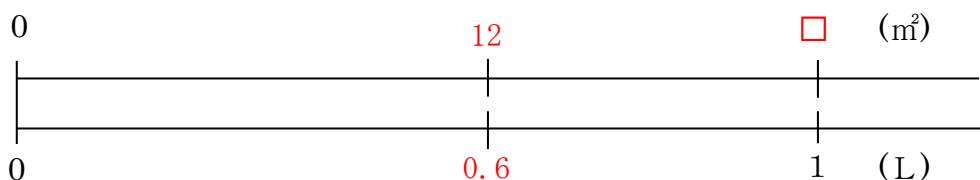
(3) リボン 1mのねだんを求める式と答えを書きましょう

式  $120 \div 0.4 = 300$

答え  $300$  円

◆解説◆  
1 mのねだんが□円だから、買った長さが0.4倍になれば、代金も0.4倍になると考えて、 $\square \times 0.4 = 120$   
□を求める式は、 $120 \div 0.4$ になります。

2 0.6Lで板を 12 m<sup>2</sup>ぬることができるペンキがあります。何m<sup>2</sup>ぬることができますか。(下の数直線の図を使って考えてみましょう。)



式  $12 \div 0.6 = 20$

答え  $20$  m<sup>2</sup>

◆解説◆  
1 Lのペンキで□m<sup>2</sup>ぬることができるとする、使ったペンキの量が0.6倍になれば、ぬることができる板の面積も0.6倍になると考えて、 $\square \times 0.6 = 12$   
□を求める式は、 $12 \div 0.6$ になります。

$12 \div 0.6 = \square$

↓ ×10   ↓ ×10

$120 \div 6 = 20$    等しい

小数でわる計算は、整数の計算でできるように考えると、答えを求めることができます。

## 小数の計算

年 組 番 名前

1 次の問題に答えましょう。

(1) 0.74 を 100 倍した数はいくつですか。

(2)  $1.5 \times 0.6$  を、かけ算の性質を使って、次のように計算します。

$1.5 \times$	$0.6 =$	ウ
① ↓ 10 を かける	② ↓ 10 を かける	③
$15 \times$	$6 =$	ア
		イ でわる

アからウに入る数をそれぞれ書きましょう。

(3)  $2.5 \div 0.7$  の商を一の位まで求めると、商は 3 で、あまりは 0.4 となりました。この答えが正しいかどうかを、次のように確かめます。

エ	$\times 0.7$ を計算して、	オ	を足します。その答えが	カ
になるかどうかを確かめます。				

エからカに入る数をそれぞれ書きましょう。

## 小数の計算

年 組 番 名前

1 次の問題に答えましょう。

(1) 0.74 を 100 倍した数はいくつですか。

**74**

(2)  $1.5 \times 0.6$  を、かけ算の性質を使って、次のように計算します。

$1.5 \times$	$0.6 =$	<input type="text" value="ウ"/>
① ↓ 10をかける	② ↓ 10をかける	
$15 \times$	$6 =$	<input type="text" value="ア"/>

イ  
でわる

アからウに入る数をそれぞれ書きましょう。

ア

**90**

イ

**100**

ウ

**0.9**

◆解説◆

かけ算では、かけられる数を 10 倍、かける数を 10 倍すると、積は 100 倍になります。だから、 $15 \times 6$  の積を 100 でわると、答えを求めることができます。

(3)  $2.5 \div 0.7$  の商を一の位まで求めると、商は 3 で、あまりは 0.4 となりました。この答えが正しいかどうかを、次のように確かめます。

$\times 0.7$  を計算して、

を足します。その答えが

になるかどうかを確かめます。

エからカに入る数をそれぞれ書きましょう。

**3**

オ

**0.4**

カ

**2.5**

◆解説◆

商  $\times$  わる数 + あまり = わられる数 になります。  
 $3 \times 0.7 + 0.4 = 2.5$